

野ネズミ被害 目立つわい性樹園

「ふじ」の収穫が終わって作業も一段落しますが、降雪前に腐らん病の秋末散布および野ネズミ対策などの作業を実施して来春に備えます。

1 腐らん病の秋末散布

県中北部では、発生が定着してきています。収穫後、または、落葉期にトップジンM水和剤、ベフラン液剤25をていねいに散布して秋末感染を防止しましょう。

2 野ネズミ被害の防止

野ネズミは、草生、敷草・敷ワラしている園、水田転換園、山林原野の隣接園などに好んで生息します。被害を受ける時期は、冬から春にかけてが多く、とくにわい性樹園で被害が目立っており、樹勢の衰弱やひどい場合には枯死します。対策としては、生息密度を低下させるための毒餌投与と、忌避剤による防除を併用することが望ましいでしょう。

○被害の回避

草生園などでは積雪前に幹の周囲を清耕にして野ネズミの巣作りを防ぎます。

○忌避剤の利用

根雪前に樹冠下（半径約50cmの範囲）の落葉、雑草を取り除き、ネマモール粒剤30、フジワン粒剤を散布します。

○野ネズミの駆除

毒餌（商品名：ヤソヂオン等、防水加工袋に入ったものが便利）を、直接ネズミ穴や樹の根本および樹列間に一定間隔で配置して防除します。



【野ネズミ被害】



【野ネズミ被害：地上部】